

研究課題

小・中学校の継続性・系統性ある教育活動の推進

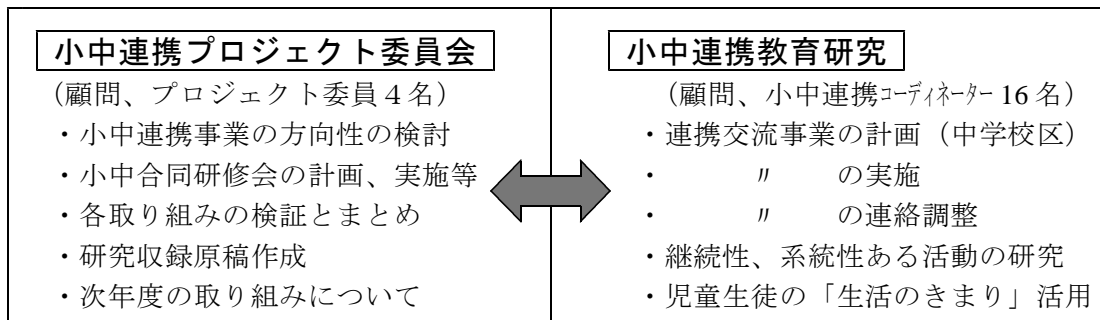
1 基本方針と研究推進の方向性

1 ねらい

- (1) 小中学校の指導法の継続性、学習内容の系統性のある教育活動を推進し、教育活動全般における教育効果を高める。
- (2) 小中学生の異年齢交流により、児童生徒の社会性や感性を育む。
- (3) 小中学校の教員が、それぞれ異校種における教科指導や生活指導等を経験し情報交換することにより、発達段階に応じた教育内容や指導方法の工夫ができるようにする。

2 研究内容

- (1) 小中連携コーディネーターを中心に、交流授業、教員1日交流、小中合同研修会を企画実施し、自校の教育に生かす。
 - ① 小中それぞれの教育観、教育活動を知る。
 - ② 教科内容の系統性を確認する。
 - ③ 互いの指導法の良さを知る。
- (2) 教員の積極的な交流を図り、生活面における児童生徒の適切な指導について共通理解を図る。
 - ① 児童・生徒指導の継続性について、情報交換する。
 - ② 個人情報の有効活用によって、個に応じたきめ細かな支援を円滑に接続する。
- (3) 異年齢の子どもがふれあうことにより、社会性など様々な感性を育む。
 - ① 児童・生徒が環境の変化に対応できるよう、柔軟な心づくりに努める。
 - ② 小学生が安心して中学校へ進学できるよう、早期より中学校の教育活動内容に慣れるよう工夫する。
 - ③ 小中学生が合同で活動する授業を取り入れ、思いやりやあこがれの気持ちを育て、子どもの主体的な活動の活性化を図る。



児童生徒のよりよい成長のために

教職員間の連携強化	児童生徒の交流
<p>☆小中学校の教師が連帯感を高め、小中学生を共に育てようという意識をもつために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の交流① (1日交流：中学校区における交流) ○教職員の交流② (小中合同研修会) ○研究授業等の公開 ○「生活のきまり」の活用 →9年間の段階に応じた、継続的指導 	<p>☆小学生にとっては中学生への憧れの気持ちや中学校への期待をもてるように、中学生にとっては、自己有用感をもてるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ○合唱等の発表会 ○6年生への中学校案内 ○子ども未来プロジェクトの活動 合同清掃活動・合同あいさつ運動等 ○中学校体育祭・文化祭等への小学生の招待 ○部活動体験 ○小中合同授業・体験授業

2 具体的な取組

1 中学校区における教職員の連携研修の実施

(1) 小中教員交流研修（市内全小中学校間での交流）

【内 容】

- 中学校区ごとに、小学校の教員が中学校で、中学校の教員が小学校で、それぞれ1日を通しての学校生活の体験交流を行う。
- 授業内容の系統性に加え、発達段階を踏まえた生活面での指導の違いや系統的な指導の必要性を確認し、情報交換を行う。
- 授業参観に加えて、T2で授業に参加する。（教科・領域によってはT1での授業も行う。）

【平成26年度 交流教員】 小学校…12名 中学校…13名 計 25名

	学校名	交流教員氏名	交流先	交流日
小学校 ↓ 中学校 ↑	1 薬師寺小学校	北城 篤史	南河内中学校	7 / 15 (火)
	2 吉田東小学校	星野 良子	〃	7 / 8 (火)
	3 吉田西小学校	辻 泰臣	〃	7 / 15 (火)
	4 祇園小学校	福田 麻奈美	南河内第二中学校	6 / 24 (火)
	5 緑小学校	稲葉 恵子	〃	6 / 24 (火)
	6 石橋小学校	中尾 翠	石橋中学校	7 / 11 (金)
	7 古山小学校	澤田 貴典	〃	6 / 27 (金)
	8 細谷小学校	佐藤 史昌	〃	6 / 9 (月)
	9 石橋北小学校	荒川 清幸	〃	7 / 3 (木)
	10 国分寺小学校	牛尾 真由美	国分寺中学校	6 / 19 (木)
	11 国分寺西小学校	北条 みゆき	〃	7 / 1 (火)
	12 国分寺東小学校	篠原 元樹	〃	6 / 20 (金)
中学校 ↓ 小学校 ↑	13 南河内中学校	小林 秀敏	薬師寺小学校	9 / 16 (火)
	14 〃	渡邊 沙織	吉田東小学校	9 / 8 (月)
	15 〃	米倉 一晃	吉田西小学校	9 / 24 (水)
	16 南河内第二中学校	中山 智史	祇園小学校	6 / 24 (火)
	17 〃	長谷川 諭	緑小学校	6 / 24 (火)
	18 〃	堀 美弥	祇園・緑小学校	6 / 24 (火)
	19 石橋中学校	松本 美知子	石橋小学校	7 / 11 (金)
	20 〃	石崎 真清	古山小学校	6 / 27 (金)
	21 〃	米山 毅	細谷小学校	6 / 20 (金)
	22 〃	岡田 親亮	石橋北小学校	7 / 3 (木)
	23 国分寺中学校	松永 祐樹	国分寺小学校	7 / 7 (月)
	24 〃	鋪屋 佳子	国分寺西小学校	7 / 7 (月)
	25 〃	久世 佳子	国分寺東小学校	7 / 4 (金)

【感想】

①小学校教員→中学校において1日体験

- ・中学校の学習内容は、小学校の学習内容の上に成り立っているということがあらためて分かった。小学校段階で身につけさせるべきことはしっかり指導していかなければと思う。
- ・学習や生活の態度は、小学校での積み重ねが中学校に影響することが多いと考える。小学校からの指導の大切さを改めて感じた。
- ・英語の授業では、小学校の外国語活動と比較するとレベルが違いすぎる。小学校の外国語活動の授業改善が早急に必要だと感じた。
- ・生徒達の部活動と学習の両立を頑張っている様子が分かった。
- ・生徒会を中心に、生徒が自主的に活動していることが素晴らしいと感じた。
- ・授業中の生徒の様子から感じたことは、学年が上がるにつれて受け身のスタイルから自分の習得した知識を駆使して考えるようになるということだ。
- ・小学校6年間で身につけた力がどのようにつながっていくのかを実感することができた。
- ・中学校に必要な力を小学校のうちから意識して指導していきたい。
- ・小学校でコミュニケーションを重視した外国語活動を経験した生徒は、話すことには意欲的に取り組んでいると感じた。
- ・小中の学習の系統性、継続性を大切にしている観点から、小中学校それぞれの教科書の内容等を見合う場があると良いと感じた。
- ・生徒達のけじめある生活ぶりや態度、来校者への礼儀や親切さに感心した。
- ・挨拶、返事、自問清掃等が徹底されていた。小学校でも少しずつ中学校の様子を伝え、宇段階に適したルールやマナーの指導をしていきたい。

②中学校教員→小学校において1日体験

- ・小学校の先生方の、子ども達一人一人に対するきめ細かな指導を見習わなければならないと感じた。
- ・一人一人の児童がよく把握され、上級生が下級生の面倒をよく見ている温かい雰囲気小学校から入学してくる児童が、中学校でも安心した学校生活を送れるよう、配慮や引継ぎをしっかりとやっていかなければならないと感じた。
- ・発表や聞き方の指導が低学年からしっかり行われていた。教科書の音読の仕方や姿勢についても細かく指導が行き届いていると感じた。
- ・小学校でどのような学校生活を送ってきたのかを知ることは中学校への入学後、中学校生活への適応を促すための大きな情報となる。小中でしっかりと情報交換することは児童生徒への指導に一貫性を持たせる意味でも大切であると思う。
- ・小学校の先生方がきめ細かな指導をされていることがよく分かった。特に教室の環境整備、掲示物の工夫は中学校でも参考にしなければならぬと思った。
- ・ロッカーや机の中も整然としていた。時間を守ることや話の聞き方の指導もしっかりと行われていた。
- ・9年間を見通して成長の過程を見守るという共通の視点を共有することが必要であると感じた。
- ・中1ギャップの改善に向けて、自問清掃や自主学習、生活面での指導など中学校を意識した取組が行われていた。
- ・全学年を参観させていただき、発達段階の変化の様子を垣間見ることができ、各学年に応じた指導が必要だと感じた。
- ・T1として英語の授業を行った。小学校でも外国語活動の授業が行われていることから、以前と比べ、単語力は格段に上がっていると感じた。使う場面を多く取り入れて英語の素地を作ってほしい。

【感想】 (◎…同様意見多数)

- ◎同じ地区の小学校、中学校で情報交換できたことで相互理解が深まり有意義だった。
 - ◎小中学校とも、課題が似ているものが多く、地域の特徴をふまえた共通部分の確認や解決策についての話し合いができて良かった。
 - ◎小中間の連携の重要性を再確認することができる良い機会となった。
 - ◎小学校、中学校それぞれの取組に見習うべき点が多く、今後に生かしていきたい。
 - ◎形式ばらずに、率直な意見交換ができて良かった。
 - ◎部会ごとの協議のテーマが明確になっていたり、事前に課題についてアンケートをとったりしたことにより、活発な協議となり昨年度より充実していた。
 - ◎講話を聞いて、教科の交流を行うべきだと感じた。
 - ◎小学6年生に、中学入学へ向けて何を目標として指導すれば良いかヒントをいただいた。
 - ◎小中の指導の連続性ばかりでなく、小学校間でも共通して指導するべきこともあると感じた。
 - ◎「子ども未来プロジェクト」の活動について、中学校を中心とする取組の内容が改めて分かって良かった。小中学生が共に活動を進めることは大変有意義だと思う。
 - ◎「とちぎっ子学力調査」の結果から課題と具体策を示した情報交換が行えた。自校でもしっかり分析して取り組んでいきたい。
 - ◎小学校の先生方が、中学校の指導に興味をもっていることが分かった。情報を発信する方法を考えたい。
- △年間1回ではなく、複数回このような研修を実施できるとよい。
△毎回中学校の先生方の欠席者が多く、残念に感じる。
△全ての学校がふくまれるグループ分けでないと情報交換に偏りが出るように思う。
△学習指導についてもっと深い話し合いができると良い。



2 中学校区における児童生徒の交流事業の実施

(1) 南河内中学校区での交流

①下野市子ども未来プロジェクト小中合同会議

8月27日(水)

薬師寺小、吉田東小、吉田西小の代表児童と南河内中学校生徒会役員が集まり「支え合い・わかり合い・心の輪を広げよう」の実践について話し合った。



②小中合唱交流

10月30日(木)

合唱交流は3年前に1度実施したことがある。訪問した中学3年生が6年生の時、小学校で中学生の合唱を聴いたことを覚えていて、3クラスが3小学校に喜んで向かった。



自転車で一路小学校へ



薬師寺小学校のみなさんの前で



みなさんと歌えるのを楽しみにしていました。



卒業生を見守る先生方と吉田東小のみなさん



吉田西小のみなさんからのお礼の歌

③中学校授業参観(小学6年生児童保護者向けにも公開)

11月15日(土)

④中学校授業体験と生徒会本部役員による中学校説明会

12月16日(火)

⑤子ども未来プロジェクト地域清掃活動

12月20日(土)



《成果》

- ・子ども未来プロジェクトの話合いから提案された「地域の清掃」を実践することができた。また継続実践のための足がかりができた。
- ・小学校と連携し、合唱交流を実施することができた。自転車で移動する際には、PTAの立哨指導をいただくなど、様々な協力を頂いていることに感謝しながらの活動となった。
- ・2年目となった小中授業交流は、社会、数学、英語で実施した。小学生にも中学生にも意義深いものとする事ができた。

《課題》

- ・活動する時にさらに達成感をもてるよう、児童生徒が主体的に取り組める準備、手立てを講じる。
- ・「地域の清掃活動」が学校区のものになるための工夫、実践をしていきたい。

(2) 南河内第二中学校区での交流

・あいさつ運動

月曜日は二中学生が祇園小と緑小に出向いて小学生と一緒にあいさつ運動を行った。また、火曜日は、二つの小学校の児童が二中に来て3校であいさつ運動を行った。この交流は9月～2月まで毎月2回ずつ実施した。



・放送交流

各学校の活動の紹介や、伝えたいことなどについて、原稿を作成して交換し、給食の時間等で放送した。9月から始まり、月に1回程度ずつ行った。

・小中交流音楽集会 10月29日(水)

南河内第二中合唱コンクールで金賞・銀賞になった3年生と2年生の4学級が、2学級ずつ祇園小と緑小に出向き、合唱を披露した。また、小学校では選抜合唱団の歌の披露や全体合唱やインタビューなどが行われ、お礼の手紙もいただいた。



〈中学生の合唱〉



〈全体合唱〉



〈インタビュー〉

・二中学区児童生徒交流クリーン活動 11月21日(金)

児童と生徒と一緒に地域内の公園や通学路の清掃を行った。



・新入生保護者説明会 12月11日(木)

祇園小と緑小の6年生、保護者が二中体育館にて生徒の手による中学校の説明を聞いた。その後、2年生教室や特別教室で授業体験を行った。



〈劇～授業の様子〉



〈部活動紹介〉



〈授業体験〉

《成果》

- 中学生は先輩としての自覚が深まり、小学生は中学生への憧れや中学校の理解が進み、お互いにより影響を与え合ったこと。
- 小中交流が進み、生徒と児童の和やかな雰囲気がつくられ、情操教育の一助となったこと。

《課題》

- 行事の目的や意義などを小中の全教職員が共通理解し、連携して指導してから活動を行う態勢を構築すること。
- 小中連携行事は継続していくことが大切であるが、小中学校同士の目的や時間、場所や内容の調整が難しいこと。

(3) 石橋中学校区での交流

「入学説明会」において中学1年生が6年生及び保護者に対して歓迎の合唱を披露した。また学校行事や部活動・生活の決まり等について説明を行った。その後、中学生の案内で1年生の授業を6年生が見学した。



歓迎の合唱「ふるさと」



部のユニフォームを着て部活動紹介



小学生を案内して教室訪問

「子ども未来プロジェクト」では、中学生が登校時間に小学校を訪れ、あいさつ運動を展開した。小学校の児童と共に、校門や昇降口、教室で、登校してくる児童や地域の方々に元気よくあいさつをした。



小学校で取り組んでいる

「モーニングスマイル」運動に参加



校門や昇降口で登校してくる児童にあいさつ



《成果》

- ・小学生は、中学生が優しく親切に対応してくれたことに安心感を得ていた。
- ・小学生は中学校の授業を参観し、教科担任制の授業を実感することができた。
- ・中学生は6年生に対して「学校案内リーフレット」を作成し、入学説明会に於いて配付した。そのことにより先輩としての自覚が芽生えた。また目的意識や相手意識を持って、表現する力の向上につながった。
- ・活動を通して、小学校と中学校の絆が深まった。

《課題》

- ・授業参観だけでは、中学生からの一方的な発信に終わり、小学校の児童が参加する場面がなく、小中の連携という意識を互いに持つには至らなかった。
- ・中学校の学び合いの授業は、小学校の一斉授業とは違う形態で戸惑うこともあったようである。
- ・1年生の授業だけでなく、2・3年生まで交流の幅を広げられると良いと感じた。また、部活動の見学もできると良かった。
- ・来年度は小学校から事前に希望を聞いて、小学校のニーズに合わせた計画を立てられると良い。

(4) 国分寺中学校区での交流

- ① 6/27 (金) : 国分寺中合唱コンクールを国分寺小6年生見学
- ② 6/30 (月) : 国分寺小音楽集会参加 (国分寺中3年生による合唱発表など)
- ③ 7/ 1 (火) : 国分寺西小音楽集会参加 (国分寺中3年生による合唱発表など)
- ④ 7/ 1 (火) : 国分寺東小音楽集会参加 (国分寺中3年生による合唱発表など)
- ⑤ 8/20 (水) : 下野市子ども未来プロジェクト活動 (国分寺中)
ワークショップ、今後の交流についての話し合い (児童・生徒代表者)
- ⑥ 9/29 (月) : 下野市子ども未来プロジェクト活動 (国分寺東小)
共同清掃活動、お楽しみ交流会 (生徒会役員による交流)
- ⑦ 10/ 3 (金) : 下野市子ども未来プロジェクト活動 (国分寺西小)
共同清掃活動、お楽しみ交流会 (生徒会役員による交流)
- ⑧ 10/ 7 (火) : 下野市子ども未来プロジェクト活動 (国分寺小)
共同清掃活動、お楽しみ交流会 (生徒会役員による交流)
- ⑨ 12/11 (木) : 新入生オリエンテーション (国分寺中へ各小学校の6年生が来校)
生徒会本部役員による新入生への中学校説明会
小学6年生児童・保護者向けの授業体験や部活動見学・体験など
- ⑩国分寺小・国分寺中合同による朝のあいさつ運動 (月に1度・火曜日から金曜日の4日間)
- ⑪国分寺小のクラブ活動における国分寺中の校庭貸与 (月に1度)



〈国分寺東小における合唱の発表〉



〈国分寺西小における合唱の発表〉



〈国小国中合同のあいさつ運動〉

《成果》

- ・今年度は子ども未来プロジェクトの活動が加わって、児童生徒の交流は例年以上にさかんになり大きな成果をあげた。また、隣接する国小・国中の交流は今年度もさかんで合同のあいさつ運動は、今年度で5年を経過した。あいさつにハイタッチも加わり、たいへん和やかな雰囲気の中でのあいさつになってきた。

《課題》

- ・今後も継続していくためには、小中同士の時間の確保や場所、内容の調整等が難しい。また、児童・生徒の移動における安全確保も課題である。

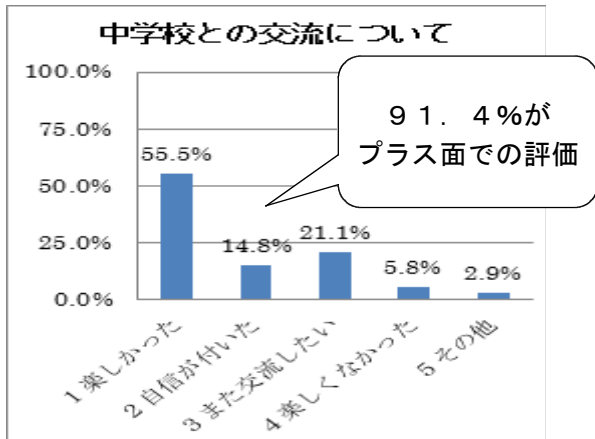


〈小学生の授業体験〉

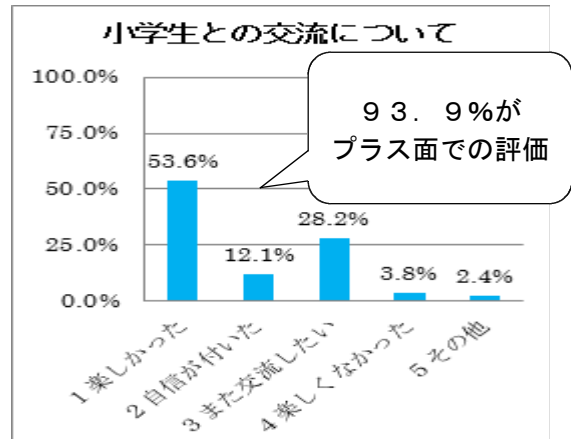
3 児童生徒へのアンケートを通じた実態の把握

(1) 中学校区における児童生徒の交流事業実施後の振り返り

①小学6年生の回答

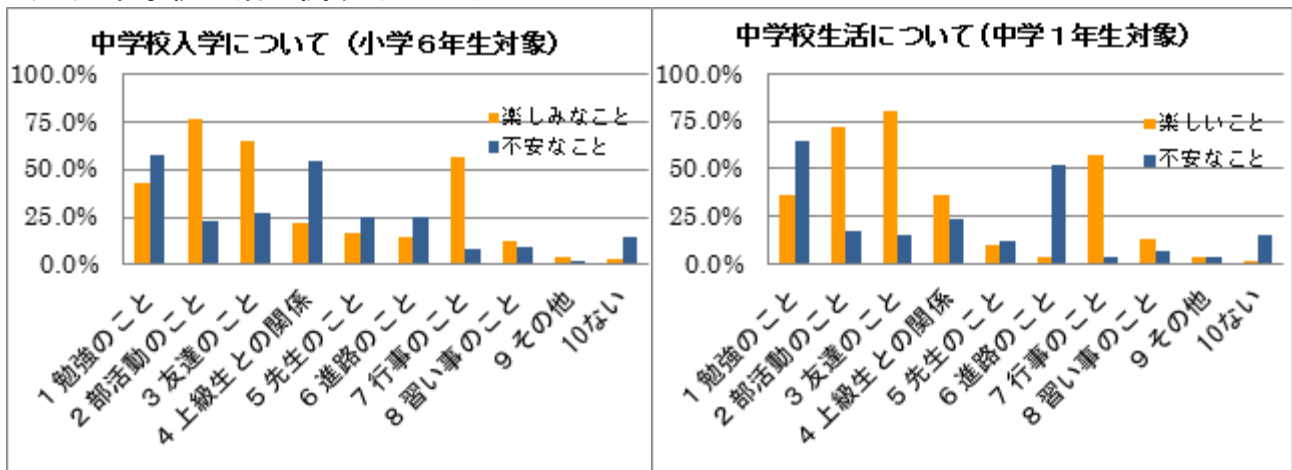


②中学1年生の回答



2(1)～(4)に示した中学校区における児童生徒の交流事業実施後にアンケートをとったところ、小学生、中学生共に9割以上の児童生徒が交流を「楽しかった・自信がついた・また交流したい」とプラス面での感想をもっていた。児童生徒にとって有意義な交流であったといえる。

(2) 中学校生活に関するアンケート



小学6年生では、「勉強」と「上級生との関係」を不安に感じている児童が5割を越えている。また、「友達・先生」等の人間関係についての不安を抱えていることが分かる。

中学1年生では、特に「上級生との関係」の不安は半減し「友達、先生」への不安も減っている。それに対して不安要因は「勉強・進路」に集中してきていることが分かる。

楽しみと感じていることについては今後も充実した活動を進め、不安要因を軽減できるよう、情報提供やきめ細かな対応が必要である。

4 成果と課題

【成果】・小中教員交流研修や小中合同研修会は、回を重ねるごとに指導法の違いや児童生徒への対応の違いへの気づきをからそれぞれの教育活動への相互理解が深まっている。

- ・下野市子ども未来プロジェクトによる小中学校合同での交流活動、中学校での入学説明会の際の小学6年生の中学校での授業体験等を通して、児童生徒がお互いを身近な存在と感じ、自己理解や他者理解を促す機会となった。

【課題】・今後は学習活動の系統性や連続性を意識した教科指導に関する具体的な情報交換や、教育課程の見直しについての検討の機会を設けることが必要である。

- ・小中教員交流実施前に、打合せを行い中学校教師が小学校において教科の専門性を生かしT1で授業を行う場を設定することが望まれる。